

令和4年度シラバス

教科	科目	単位数	履修学年・クラス
公民	倫理	2	2-A

1. 学習の到達目標

1. 倫理の学習が、人間のあり方・生き方にかかわるものであることを学ばせる。
2. 先人の経験や学問・芸術に学び、客観的に見つけ自覚的に捉えられるよう学ばせる。
3. 生徒の当面する課題などを中心に、先哲の考え方を学び自らの課題を積極的に解決していく力を育む。

2. 学習の計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 青年期の課題と自己形成 <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義 ・青年期の課題と生き方 ・人間とは何か ・ギリシャの思想 第2章 人間としての自覚 <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教 ・中国の思想 ・芸術と人間 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生における青年期の位置づけ、特徴などについて考え、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期、アイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて学ばせる。 ・人間の定義について考えた上で、パスカルの言葉を手掛かりに先人の思想を学ぶ意義について理解させる。 ・ギリシャ思想は、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの生涯と思想を中心に理解します。また、その思想がどのように発展したのかを学習させる。 ・世界の三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教の基本的な考え方だけでなく、歴史的な成立過程や、発展、拡大の経緯について理解する。また、儒家・老荘思想からその後の中国思想の展開を理解する。
2 学 期	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の精神風土 ・仏教と日本人の思想形成 ・儒教と日本人の思想形成 ・国学・庶民の思想 ・西洋思想と日本人の近代化 ・国際社会に生きる日本人の自覚 第4章 現代を生きる人間の倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・現代とはどのような時代か ・人間の尊厳の根拠を求めて 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代日本人のものの考え方を、精神風土との関係でとらえるとともに、宗教観・倫理観などについて知識を深めさせるとともに、外来思想である仏教の需要を通して、日本人の仏教と思想形成の関わりを理解させる。 ・国学の特色を理解し、近世日本の思想について、町人・農民・幕末の思想を学習させる。 ・西洋文化との接触後、啓蒙思想、自由民権思想、国家意識、キリスト教思想などと日本人の思想形成について理解させる。 ・現代社会のさまざまな面を考察し、西洋の人間観と人間尊重の精神について、経験論と豪理論の展開を学ばせる。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・民主社会と自由を求めて ・社会変革の倫理を求めて ・自然や科学技術と人間のかかわり ・民主社会の成熟のために 第5章 現代の課題を考える <ul style="list-style-type: none"> ・生命 ・家族 ・地域社会 ・情報社会 ・文化と宗教 ・環境 ・国際平和と人類の福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代市民社会の持つ矛盾や克服を課題としたヘーゲルの人倫思想、功利主義、社会主義思想などについて理解させる。 ・人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問いなおしとしての実存哲学、フランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観を理解させる。 ・様々な課題を見つめ、人間の生命や医療問題を考えさせる。 ・現在の環境問題の基本概念を踏まえ、現代社会における諸課題の倫理的問題について、理解を深めさせる。

3. 評価方法・評価の観点

評価方法	定期試験（中間 期末）、平常点（小テスト・ノート提出・宿題提出含む）
------	------------------------------------

評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
評価の内容	人間尊重と自己形成について関心を高め、自立した人間へと成長していく意欲を高めるとともに、自分たちに関係する諸問題を、自らが解決していこうとする態度を養っていこうとする。	自己の確立について課題を見だし、自分を始めとする人間の存在や価値などについて多方面から考え、社会のルールをしっかりと理解し、良識ある大人として主体的・公正に判断する。	青年期における自己形成や人としての在り方などに関する諸資料を収集し、必要な情報のみを選択して、これらを活用するとともに、過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、人として生きるための課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

4. 使用教科書・副教材

使用教科書	倫理（東京書籍）
副教材	倫理ワークノート（東京書籍）